

白河オリンパス株式会社が日本能率協会優良工場表彰
「2019年度 GOOD FACTORY 賞：ファクトリーマネジメント賞」を受賞
～高いレベルの“工場運営”を行う会社として選出～



授賞式



表彰状とトロフィー

白河オリンパス株式会社（社長：村上不二男）は、オリンパス株式会社（社長：竹内康雄）のグループ会社であり、医療用内視鏡製品の製造及び修理（東日本担当）を手がけ、部門間連携（調達-製造-修理）含む製造強化の取組が一般社団法人の日本能率協会が実施する優良工場表彰「2019 年度 GOOD FACTORY 賞」を受賞しました。

本賞は、工場の生産性や品質の向上をはじめ、さまざまな体質革新活動に取り組んでいる事例に着目し、優れた成果を挙げた工場を日本製造の範として日本能率協会が表彰するものです。2011 年に設立され、年に一度、活動のプロセスや成功要因、現場の知恵、働く方々の意識改革、社会的貢献など、幅広い見地より審査される栄誉ある表彰制度です。

「GOOD FACTORY 賞」は 4 つの賞（ものづくりプロセス革新賞、ものづくり人材育成貢献賞、ものづくり CSR 貢献賞、ファクトリーマネジメント賞）からなり、今回、白河オリンパス(株)は「ファクトリーマネジメント賞」を受賞しました。本賞は、総合的に“工場運営”のレベルが高く、全体的にバランスの取れた“工場運営”を行う工場に贈られます。

白河オリンパス社は1978年に設立され、その活動は複写機の生産から始まりました。その後、競争環境の変化から複写機を撤退し、厳しい時期を乗り越え内視鏡の生産を開始し、顧客ニーズの拡大から機能を広げてきました。その過程では複写機撤退の苦い経験から危機感を持ち、生残りを掛け選ばれる工場として、白河事業場の特徴を最大活用し製造と修理、あるいは調達・製造・修理といった多機能について各部門が連携し合い、シナジー効果を生んで工場の体制強化と併せて人材育成を実施し、強い製造を造ってきた事が評価され、本賞の受賞に繋がりました。

特に評価頂いた点

1. 個人までの目標展開と、実施・評価のフレームワークと仕組みが機能している
2. 事業場の特徴を生かし、製造と調達及び修理部門とのシナジー効果を創出している
3. 白河直生産活動を通して継続的に人材育成・技能者育成ができています

以上